

令和4年度植物友の会活動記録

久保晴盛・富澤まり

はじめに

植物友の会は、植物に興味を持つ一般の方々から募集した人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和54年10月に設立された会である。

令和5年1月現在、会員数は個人会員が72(-7)名、家族会員が18組40(+4)名の計112名であった。()内は昨年度同月からの増減会員数。

活動

年6回の例会、年3回の野外観察会、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行った。また、園内ボランティア(友の会ボランティア)、部会活動(植物同好会)などは通年で活動した。

(1) 例会

2か月に1回の定例会を展示資料館2階講堂で行った(表1)。栽培・展示課職員が持ち回りで行う年4回の「季節の園芸作業」のほか、招聘した外部講師による「特別講義」(写真1)と年間を通じての講話「植物ふしぎ発見!ポタニカ漫談」を新しく企画した(表1)。例会の前には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

表1 例会の内容

第1回	木性バゴニアの挿し木*1
5月15日	変化朝顔を育ててみよう*1
参加者30名	世界の餅とまんじゅう紀行*2
第2回	アリ植物の育て方*1
7月17日	つるバラの仮誘引*1
参加者22名	世界の人々の主食の話*2
第3回	ストレプトカーパスの植替え、鉢増し*1
9月11日	秋から始める鉢植えダリア*1
参加者24名	薬になる植物の話*2
第4回	・特別講義「認知症とカギズラとヒガンバナの話」
11月13日	講師：神田博史先生
参加者19名	
第5回	冬の鉢花(シクラメン)の管理について*1
1月15日	サクラソウの植え替え*1
	郷土の野菜・果物の話*2
第6回	衣類と染物に使う植物の話*2
3月12日	バックヤードツアー(予定)

*1 季節の園芸作業 *2 植物ふしぎ発見!ポタニカ漫談



写真1 特別講義の様子(神田博史先生)

(2) 観察会

今年度は2年ぶりに観察会を計画通り開催した。引き続きバスを借上げて移動することが困難なため、公共交通機関で移動できる場所で開催することとし、比治山公園(南区)など計3回の観察会を実施した。なお、第3回のコケ観察会は令和4年度特別企画展「コケの不思議展」の関連行事として、ガイドボランティアの会と共催で実施したものである。

表2 野外観察会の開催地と場所

第1回	・サクラと公園内の植物観察
4月5日	(広島市南区比治山公園)
参加者数10名	
第2回	・妹背の滝と上田宗箇の墓(写真2)
5月21日	(廿日市市大野町)
参加者数7名	
第3回	・コケ観察会 in 広島大学
11月27日	(東広島市)
参加者数11名	

(3) 展示会

植物同好会の会員が自宅で栽培している季節の山野草などの植物を展示する「植物同好会ロビー展示」を5月10日(火)~15日(日)の会期で実施し、10名の方に92点の作品を出品いただいた。第2回(9月6日(火)~11日(日))については、作品が集まらず会の意向により中止することとなった。

(4) 園内ボランティア

第1・第3火曜日に有志を募って通年で開催した(表3)。温室内の施肥や花の植え付けなどの植栽管理、屋外の除草、ハンギングバスケット作成やクリスマスを飾るフラワー展の装飾(写真3)など多岐にわたって園内の魅力向上に貢献していただいた。

表3 令和4年度友の会ボランティア活動記録

活動月	活動内容	のべ 人数
4月	植栽管理(カスケード・熱帯スイレン温室ほか)	18
5月	植栽管理(ペゴニア植付け・大温室の除草)	13
6月	除草等(カスケード・ログガーデン)	12
7月	花がら取り・除草(栽培温室・ペゴニア温室)	4
8月	花がら取り(ペゴニア温室)	2
9月	ハンギングバスケット作成、はなの輪発送	6
10月	除草等(大温室)	6
11月	クリスマス展飾付、ハンギング作成等	13
12月	植栽管理(カスケード・ペゴニア温室周辺)	7
1月	植栽管理(スイレン植付け・大温室の除草)	9

(5) 会誌「はなの輪」の発行

A4版8ページ(観音開き)のリーフレットとして、植物の育て方や園内の見どころなどを紹介した会誌「はなの輪」を各号500部発行し、会員のほかに関係団体へ分譲した(表4)。また、会員向けのニュースレターを例会毎に発行した。

なお、はなの輪については、植物公園の機関誌として内容を再編集したものを各号1500部発行し、広島市内の区役所や公民館等に配布した。

表4 会誌「はなの輪」の発行

令和4年4月	2022通巻171号(春～初夏号)
令和4年7月	2022通巻172号(夏号)
令和4年10月	2022通巻173号(秋号)
令和5年1月	2023通巻174号(冬～初春号)

(6) 部会

友の会内の部会は、現在は植物同好会(旧山草部会)のみが活動しており、その活動は植物公園の運営下ではなく自主的に運営されている。例年、植物同好会では、2か月に1回、友の会例会前の午前中に会合(例会)を開いているほか、5月と9月の友の会例会にあわせて開催する展示資料館ロビー展示(9月の展示は中止)や同好会独自の野外観察会を行っている。また、部会員が栽培・育成した苗物の交換も随時行っており、4月のサクラソウ展では出品(展示)に協力いただいた。

まとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響下ではあったが、予定されていた友の会活動の行事はおおむね予定通り遂行することができ、

例会などを通じて会員同士の交流も図ることができた。

友の会事業全体を俯瞰すると、新入会員の定着と事業内容の見直しが積年の課題となっている。会員数は、直近2年はほぼ横ばいにはなっているが、未更新の会員が30名以上おり(令和3年度は32名、令和3年度は37名)、毎年3割程度の会員が入れ替わる状況が続いている。発足40年を超えた伝統ある会ではあるが、長期的な事業の継続には課題が多いのが実情である。植物公園として提供できる内容には限界があるが、会員の満足度が高い状態で運営できるよう、前向きに見直しも含めた今後のあり方を検討していきたいと考えている。

活動の様子(写真2～3)



写真2 第2回野外観察会(5月21日)



写真3 友の会ボランティア(11月15日)
(クリスマス飾るフラワー展の装飾準備)